



## DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

### 決勝レポート

#### 2016/4/24 Rd-1 鈴鹿サーキット

天候：曇り 気温：22℃ 出走台数：19 台

観客数：23 日(土)22,000 人、24 日(日)32,000 人 合計 54,000 人

決勝日の鈴鹿は曇り空の影響で少し肌寒さも感じるようなコンディション。

ヨコハマタイヤで迎える初めて決勝レースは、ドライバーのタイヤマネジメントとチーム戦略、ピットストップだけでなく、運やタイミングも行方を左右するだろう。

2 列目 4 番グリッドからスタートのバンドーン選手は、初めてのスーパーフォーミュラのスタートを着実にこなし、1 ポジションアップの 3 番手で、野尻選手は良い動き出しだったがアウト側にしかスペースがなくポジションダウンを喫し 7 番手で、オープニングラップを周回。その後ロッテラー選手との激しい 7 番手争いが 29 周目のピットインまで続いた。上位 3 台はレースが 30 周を過ぎたあたりでピット作業に入る。トップ山本選手と 3 番手のバンドーン選手は 31 周目にピットイン。どちらも給油作業のみでコースに復帰した。2 台の動きを見た 2 番手国本選手は翌周にピットに入り、こちらもタイヤ交換なしでコースに復帰。順位に変動はなく、トップ山本選手、2 番手国本選手、3 番手バンドーン選手のままレースは終盤に入っていた。

タイヤバランスに苦しむ野尻選手はペースが上がらず、40 周目にバケット選手に先行を許し 9 番手へ。その後もポイント圏内を目指して猛迫するが届かず 9 位でレースを終えた。バンドーン選手は、前を走る国本選手に近づいて幾度となくチャンスを伺ったが、ミスのない走りにスキがなく、自分のペースを守って 3 位フィニッシュ。初戦から堂々の表彰台を獲得した。

#### 40：野尻 選手 9 位 (HONDA 勢 6 位)

苦しいレースでしたが、その中でもヨコハマタイヤの特性を理解できたし、次につながる発見も多くありました。良い部分をもっと伸ばし、悪い部分をつぶす作業を、チームと供に進めます。バンドーン選手は、デビューレースながら 3 位表彰台と素晴らしい結果を残しましたし、次は二人そろって、勿論自分が前で、表彰台に立てるよう、良い緊張感をもってチーム一丸となって、車体も自分自身も前進を続けます。

#### 41：バンドーン選手 3 位 (HONDA 勢 2 位)

スーパーフォーミュラ初戦の週末は素晴らしいスタートポイントになりました。経験豊富なドライバーたちが集まるハイレベルなシリーズで戦うことができて光栄に感じています。表彰台を目指してチームとともに準備してきました。オーバーテイクの難しい鈴鹿でチームにポイントを持ち帰ることができて良かったよ。表彰台にホンダドライバーがふたり上がったことも素晴らしい。次戦に向けてモチベーション高く臨みます。